

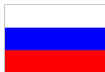
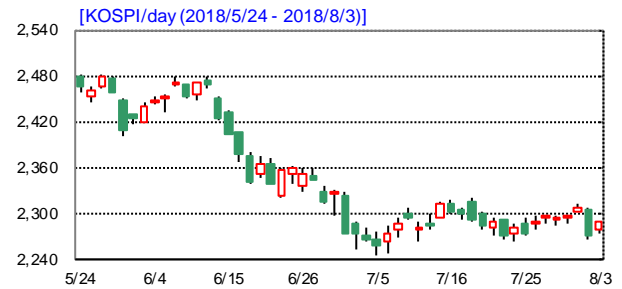


## 【韓国】 総合指数は週間で0.3%安と反落、今週は中国イベントに注目

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.3%安と反落。前週末の米株安が投資家心理の重しになり、週初の7月30日に反落して始まったものの、31日-8月1日にかけて続伸。7月の韓国の輸出が前年同月比で増加に転じたことなどが好感された。8月1日は約2週間ぶりに節目の2300ポイント台に乗せた。2日は、米中貿易摩擦の激化に対する警戒が高まる中、投資家の運用リスク回避姿勢が広がり1.6%安と大幅に下落。前日回復した節目も割り込んだ。3日は前日の米ハイテク株高を受けて主力のハイテク株に買いが優勢となり、反発している。今週は中国関連のイベントを控え、様子気分の強い展開か。米中貿易摩擦への懸念がくすぶる中、中国が週半ばに7月の貿易統計を発表する。結果次第で相場のボラティリティが高まる可能性がある。

▼指数チャート

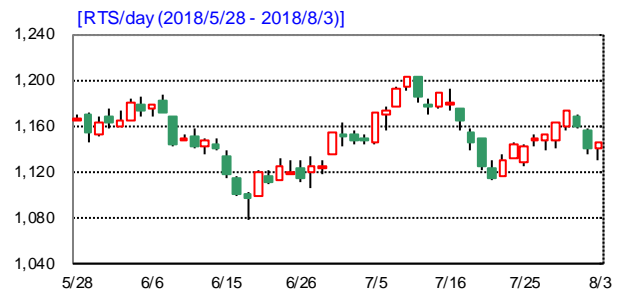


## 【ロシア】 RTS 指数は0.6%安と反落、今週も経済制裁の動きをにらんだ展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.6%安と反落。通貨安や原油安に加え、米国による対ロ経済制裁への警戒感が重しとなった。週初は企業の法人税支払いのための外貨売りを受けてルーブルが上昇し、指数も30-31日に続伸した。しかし、企業の配当支払いによる海外投資家のルーブル売り、米上院での新たな対ロ経済制裁への警戒感の高まり、原油相場下落などが嫌気され、1-2日は続落。3日は小幅に反発したが、週間では反落した。米国による経済制裁強化の見通しを受けてエネルギーのルスネフチが9.0%安となったほか、ロシア国債への投資が禁止されるとの見方からロシア10年債利回りが前週末の7.77%から週末には一時7.80%まで上昇した。今週は引き続き米国による経済制裁の動きや原油相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート



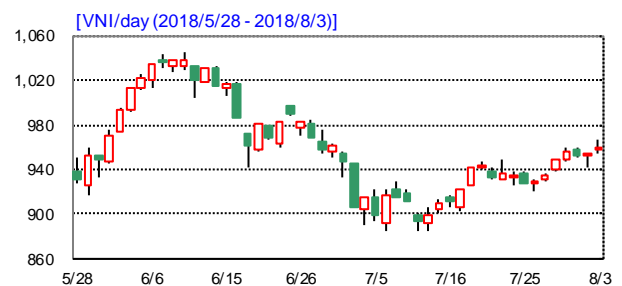
## 【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.6%高と3週続伸、今週は景気拡大期待で堅調か

### 調か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.6%高と3週続伸。良好な経済指標が好感されたほか、日銀による緩やかな金融政策の維持も安心感につながった。週明け7月30日に発表された7月の鉱工業生産が前年同月比14.3%増、CPI上昇率が4.46%と強い結果となったことでVN指数は前週から31日まで4営業日続伸。1日は米政権が2000億ドル相当の中国産輸入品への貿易制裁について、関税上乘せ幅を10%から25%に拡大するとの観測が広がり、指数は5日ぶりに反落したが、週後半は続伸して終了し、6月29日以来の水準を回復した。個別ではエネルギーのベトナム石油総社、金融のベトナム投資開発銀行、不動産のビンググループなどが指数の上昇に寄与した。今週は資金流出懸念の後退や景気拡大期待を背景に堅調な展開が続くか。

▼指数チャート

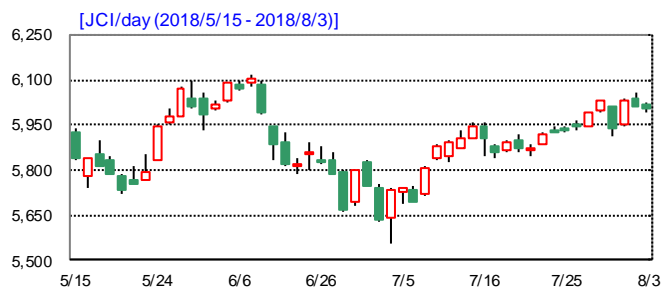


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3%高、今週は 4-6 月期の GDP 成長率が焦点**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.3%高と続伸。7 月月間では 2.4%高。先週は節目の 6000 ポイントを挟んでもみ合った。週初の 30 日は大引けにかけて上昇し 7 営業日続伸したが、31 日は 1-6 月期の純利益が 28%減少したテレコムカシ・インドネシアが売られたほか、6 月のパーム油の生産と輸出が前月に比べ減少したことも嫌気され、指数は終値で前日比 1.5%安と反落した。一方、1 日は金融株と工業関連株を中心に買い戻されて前日比 1.6%高となり、約 8 週間ぶりの高値を更新。ただ、その後は買い材料に乏しく週末まで続落した。今週は 6 日発表の 4-6 月期の GDP に対する市場の反応が焦点になりそうだ。

### ▼指数チャート

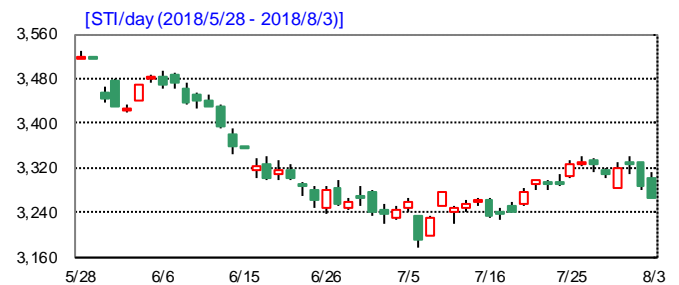


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.8%安、7 月の製造業 PMI が 4 カ月連続で低下**

スレーツタイムズ指数は週間で 1.8%安と 4 週ぶりに反落。7 月月間では 1.6%高。先週は後半の下落が痛手だった。週初の 30 日は金融株が売られて続落したが、31 日は 6 月の銀行融資残高の伸びが市場予想から上振れしたことが好感されて反発。1 日は銀行大手 3 行の 4-6 月期の決算発表を目前に控え、業績期待で続伸した。ただ、2 日は増益率が予想を下回った DBS グループが売り込まれて反落すると、3 日は前日の取引終了後に発表された 7 月の製造業 PMI が 4 カ月連続で低下したことを受け、続落して取引を終えた。今週は 10 日に 6 月の小売売上高が発表される予定。9 日は建国記念日のため休場となる。

### ▼指数チャート

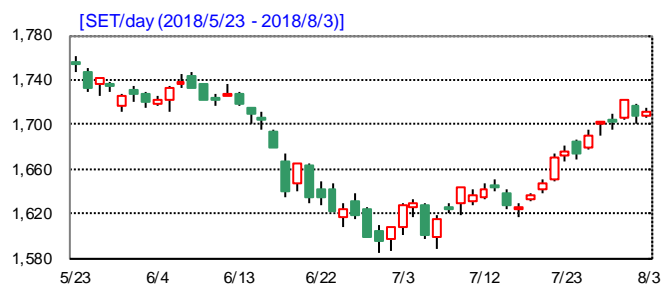


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.6%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催**

SET 指数は 4 日間の取引で 0.6%高と 5 週続伸。7 月月間では 6.7%高。先週は 1 週間を通じて終値で 1700 ポイント台を維持した。連休明けの 31 日は前営業日からほぼ横ばいでスタート。1 日は前日の NY ダウが 3 営業日ぶりに反発した流れを引き継ぎ、終値で前日比 1.2%上昇した。一方、2 日は原油価格の下落を受けてエネルギー株が売られて反落している。ただ、3 日は 7 月の消費者信頼感指数が前月を上回ったことが買い材料となり、反発して引けた。今週は 8 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、市場では政策金利が 1.50%から 1.75%に引き上げられるとの見方も浮上している。

### ▼指数チャート

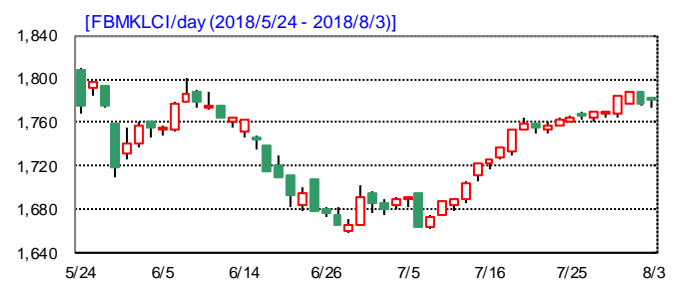


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%高、今週は 10 日に 6 月の鉱工業生産発表**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.6%高と 4 週続伸。7 月月間では 5.5%高。先週はおおむね堅調に推移した。週初の 30 日は、日本と米国の金融政策決定会合を目前に控えた様子見で前週末からほぼ横ばい。1 日まで 8 営業日続伸したが、2 日は前日に米トランプ政権が対中国の制裁関税の税率引き上げを検討すると発表したことが嫌気されて反落した。一方、3 日は 6 月の輸出額が市場予想から下振れたものの影響は軽微で、小幅に反発して引けた。今週は 10 日に 6 月の鉱工業生産が発表される予定。米雇用統計での失業率低下を受けて、前週末の NY ダウが反発したことは株式相場の追い風になりそうだ。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。